

## 大聖院：三鬼堂（さんきどう）

弥山の三鬼堂は、弥山の鎮守である三鬼大権現を祀っています。鬼は神の資質を持ったオグルのような存在で、権現は仏が神道の神の形で現れたものです。三鬼大権現は、最高仏であり宇宙そのものの大日如来を本地仏とする追帳鬼神（ついちょうきしん）と、虚空蔵菩薩を本地仏とする時眉鬼神（じびきしん）、五大明王の中心となる不動明王を本地仏とする魔羅鬼神（まらきしん）です。宮島独特の三鬼大権現は、弥山自体と弥山のさまざまな要素が神として崇拝されてきた古代からの山岳信仰、真言密教、神道の神の概念という3つの信仰要素が含まれています。

この信仰の融合は、三鬼堂ではっきりと見ることができます。三鬼堂では、祭壇に置かれた丸い鏡で三鬼大権現が表現されています。鏡は、神社で神との接点としてよく使われる神道のシンボルです。三鬼堂では、それぞれの鏡は三鬼大権現を表す仏像を伴っていますが、仏像はカーテンの後ろに隠れ、見ることはできません。壁には、大きな天狗の面が2つかけられています。長い鼻を持つゴブリンのような生き物の天狗は、三鬼大権現に仕えると考えられ、古くから山岳信仰と関係があります。

三鬼大権現は、9世紀から弥山で信仰対象となってきたと考えられていますが、弥山の現代史においても重要な役割を果たしてきました。現在の山頂へ続く山道の大部分は、三鬼大権現を篤く信仰していた日本の初代総理大臣である伊藤博文（1841～1909）による資金提供で整備されました。1991年に再建された現在の三鬼堂には、伊藤博文直筆の扁額（へんがく）が掲げられています。